



中学生からの質問「赤ちゃんのお母さんへ聞いてみたいこと」

① どれくらい週間、何月間 病院にいらしたか？
赤ちゃんという時、どんな気持ちになりましたか？

② 赤ちゃんのどんなところがかわいかったですか？

③ 妊婦さんの時、大変だったことは何ですか？

④ 赤ちゃんがうまれてきて、今までの生活と変わったことは何かありましたか？

⑤ 赤ちゃんが泣いたときに、どうすればすぐに泣き止みますか？ 寝かしつけは、やはり大変ですか？

⑥ お腹の中にいる赤ちゃんは重いですか？
赤ちゃんがお腹の中にいるとき、階段をのぼる、下りるのにはきついですか？

⑦ 赤ちゃんの名前の由来は何ですか？

⑧ 赤ちゃんについて、一番大変なことは何ですか？
一番注意していることは何ですか？

⑨ 赤ちゃんについて、一番幸せを感じるときは、いつですか？



戸惑うばかり。保護者に教えてもらいながら、抱っこしたり、おもちゃであやしたりして、優しく触れ合うことで少しずつ慣れて笑顔で接することができるようになりました。

また、子育ての苦労や赤ちゃんの名前の由来など、事前に考えた保護者への質問を発表。保護者は、中学生の疑問に丁寧に答えました。

お腹に7kgの重りを付けて妊婦の大変さを体験

赤ちゃんとの触れ合いの後は、妊婦の疑似体験を受講。保健師の指導の下で、妊娠7〜8か月の妊婦の体験を実習しました。

約7kgの重さがある妊婦体験シミュレーターを装着した状態で、大きなお腹を抱えて寝たり、起き上がったたりする動作などを体験。本を拾ったり、靴下を脱ぎ着したりなど、普段の何げない動作が妊婦にはとても負担になることを体感しました。

その後、生まれてすぐの赤ちゃんの人形を抱っこして、赤ちゃんがどれほど小さくて弱い体であるかを再確認。最後に、交流した保護者に感謝のメッセージを書きました。

中学生たちは「子育ての大変さがよく分かりました。自分を育ててくれた家族に『ありがとう』と伝えたいです」と話しました。

